

※以下は要約文となりますので、詳細は配信動画等をご覧ください。

【令和8年4月24日（金） 知事定例記者会見】

<令和8年度も佐賀県は様々な分野で新しい価値を生み出していきます>

唐津から世界へ、世界から唐津へ

6月7日、世界海洋プラスチックプランニングセンター【愛称：PLA PLA（プラプラ）】がオープンする。大使館・領事館の方からの関心が高く、海洋プラスチック問題は、世界の課題ではないかと感じている。地域発で世界の仲間を増やす施設にしたい。また、訪れた子どもたちが、未来の海を考える起点にしたいと考えている。

10月10日、ツール・ド・九州を佐賀県で初開催する。波戸岬をスタートし、ルート・グランブルー、唐津城、虹の松原、糸島、福岡に入るコースを想定。正式なコースの発表は後日になる。

ルート・グランブルーというのは、唐津の海がダイバーになるきっかけとなった、世界的なダイバー「ジャック・マイヨール」の映画から名付けた。いまこのルートを盛り上げようと取り組んでいる。

次々と動き出す“唐津プロジェクト”

現在23のプロジェクトが進行中。ロマンシング佐賀（列車）、島留学、離島ヘリポート、KMAP、eスポーツ、コスメティック、佐賀唐津道路など多岐にわたる。

4月29日、マリンアクティビティ「パラセーリング」が始まる。これは県が主導の事業。唐津での新たなビジネスモデルの起点、SSP構想の稼げるビジネスモデルにしたいという思いがあった。唐津は、セーリング、ヨットチームが強い。新たなスポーツビジネスにつながるモデルケースにしたい。スタッフは、元セーリングオリンピックコーチや日本代表級のウィンドサーフィン選手。ボートの運航は、地元の漁業者。

船で沖まで行き、船上で座って上昇、船上に降りてくる。費用は、最初の年なので1万円と設定。パラシュートに書かれた「CASTLE BAY」が、唐津の広告塔になると期待する。

すべての女性が輝ける

7月25日、「SAGA×WOMAN EXPO 2026」をSAGAアリーナで開催。8年ほど東京で行われていたWOMAN EXPOが地方都市にくる。多くの人に参加してほしい。

コスメビジネスの拠点都市「佐賀県」へ

令和9年3月2日・3日、SAGAアリーナで「コスメ国際フォーラム in SAGA」を開催。

コスメティック構想に10年以上取り組んでおり、昨年は韓国、台湾、タイと佐賀県が連携しAsia-Pacific Divisionを設立した。佐賀県がコスメの聖地、日本の拠点となるよう取り組む。

佐賀大学に新設されたコスメティックサイエンス学環の応募が多かった。連携を取りながら、コスメ県佐賀を盛り上げていきたい。

令和8年度も地域の価値を引き出す多彩なコンテンツが満載

そのほか、鍋島焼献上の歩み展をタイで開催、ARITA PROJECTも起動。全国お茶まつり、鹿島・太良プロジェクトなど。様々な事業を光らせながら、県内各地域の個性を盛り上げていきたい。

<令和8年 地価公示を分析してみました>

佐賀県の土地の価値が上昇しています

県内の地価が上昇中。地価上昇率は、商業地が全国9位、住宅地が6位、工業地は前年1位の熊本県を上回り1位となった。

長いスパンでトレンドを分析

11年前は、商業地43位、住宅地42位、工業地12位。変動率もマイナスで、地価は下落傾向だった。その後、令和3年頃から徐々にプラスに転じ、商業地、住宅地、工業地とも1桁に入ってきた。

令和3年が大きなポイント。それまで、他県で地価が上昇する一方、佐賀県はほぼ横ばいだった。しかし、新型コロナ禍に入ると、他県では地価が大きく下落したのに対し、佐賀県では急上昇。コロナ禍での対応が地価上昇を支え、その流れが今も続いていると思う。

新型コロナ禍では全国的にほとんどの経済活動がストップ

当時、県はコロナ対策として「プロジェクトM」に取り組んだ。コロナ発生初年は対策に集中したが、状況を分析する中で、コロナの収束後を見据えた取組を並行して行う必要があると判断した。

その中で、交付金を活用し、キッチンカー導入支援、OPEN-AIR 佐賀として波戸岬や北山の転換などを行った。

また、利用客が少ない時期を生かし、宿泊施設の全面リニューアルなど、新しい観光体系に合わせた高付加価値化を、国の協力も得ながら支援した。ナイトテラスチャレンジ、黄金の茶室、ティーツーリズムなどにも取り組んだ。まさに、ピンチをチャンスに変えたということ。

特に佐賀駅周辺で力強く上昇基調

佐賀駅周辺は、サンライズパーク、こころざしのもり、ART PATH、ARKS、サガハツ、さが維新広場、さが維新テラス、イルミネーションなど、車中心から歩くまちへと施策転換し「歩こう。佐賀県。」を提唱。佐賀市と連携しながら推進してきた。その成果として、県庁所在地の商業地上昇率ランキングでは、東京 23 区、大阪市に続き、佐賀市が第 3 位。地方都市が上位に入るのは奇跡だと思う。

現在、駅北側の地価も、従来高かった南側に追いつく勢いで大きく上昇。まち全体が面的に発展している。

有田焼、佐賀牛、海苔など、努力で築き上げてきた地域資源を、どうデザインして見せていくのか。その努力をしているまちだと発信していきたい。

未来への投資が佐賀の価値を高めていく。

<スポーツの新たな価値を発信する佐賀県初の学術フォーラム SSP NEXUS 2026>

SSP 構想を、国全体のスポーツ政策の機軸にしたいと考えている。その第 1 弾が、5 月 16 日、17 日に SAGA アリーナで開催される政策イベント「SSP NEXUS 2026」。

高木美帆さん、日本スポーツ政策推進機構の遠藤会長、衆議院議員の笠浩史さんなどを迎え、スポーツ政策やスポーツビジネスについて議論したい。また、スポーツ関係の有識者が集まり、様々なテーマで分科会を実施する。

<子育てし大県“さが”タクシー利用券受付中>

物価高騰対策の一環として、「子育てし大県“さが”タクシー」利用券の申請を受付中。0～2 歳児の子どもがいる家庭向けに、タクシー利用券 2 万円分を交付する。開始間もないが、すでに 1,000 件を超える応募があった。ぜひ申請をいただきたい。